

# そらうがく

(No. 65)

R2. 7. 10 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



## 本年度の研究の方針

生活・総合指導員 六ツ美北中学校 廣瀬 浩司

### ■研究主題■

『主体的・協働的に探究し、よりよく課題を解決する総合的な学習の授業』

### ■研究の重点■

- ・ 子供が切実感をもち、自分事になる課題設定。
- ・ 体験や問題解決的活動を繰り返す探究的な学習。
- ・ 多様な学習集団や学習形態の工夫。
- ・ 地域の「人・もの・こと」の積極的活用。
- ・ 評価規準の設定や評価方法の工夫。

### ■この状況の中で、どう「ひと」と関わるのか■

探究的な学習を実現するには、グループ活動や人との関わりが大切です。級友の意見を聞いたり、近所の人やその道の専門家の思いを聞いたりすることは、子供の気付きや疑問を引き出し、新たな課題を設定する原動力になります。「今年は、関わるのが難しいから…」と言って、簡単に諦めてしまうのではなく、関わることを模索しましょう。例えば、聞き取り調査は個人または二人で行う。オンラインを使つての会話に挑戦する。今が、学習形態を工夫するチャンスです。様々な知恵を出し、人との関わりを実現させたいものです。

## 思いを実現する総合的な学習を

総合的な学習部長 小川 真奈美

三か月の臨時休校を経て、学校が再開されました。どの学校でも学習の遅れを取り戻すことを最優先して、五教科（四教科）を中心に授業が行われていると思います。このようなときですので、総合的な学習に十分な時間をかけられないのが実態です。また、グループ活動や話し合い活動に制限もあり、いつも通りに授業もできないことでしょう。しかし、そんな今だからこそできることがあります。

総合的な学習は創設時より、「主体的で体験的」「協働的で探究的」「総合的で教科横断的」な学習と言われてきましたが、決まった教科書もなく、まさに「今、求められている力を高める学習」と言えます。

これは、平成二十二年に文科省から出された総合的な学習指導資料にも記されており、単に知識を得るだけでなく、実生活の中で個々の学習の成果を、行動として表すことが求められてきたのです。

今、求められている力として最初に思い浮かぶことは、新型コロナウイルス感染症への対応力です。

命を守るために正しい知識を身につけるだけでなく、手洗いやマスクの着用、「密」を避けるなど、予防のために我慢する行動が求められています。この点については、子供たちはだれに言われるでもなく、その力を身に付けています。臨時休校をはじめとした、これまで経験したことのない様々な措置が、子供たちに切実感を与えているからです。

さらに、先行きのはっきりしない不安だらけの今だからこそ、願いや思いをもち、その実現に向けて行動する力も求められていると考えます。学校においても、子供たちが楽しみにしている行事は中止や変更ばかりです。しかし、子供たちには、我慢する力を身につけること以上に、この状況の中でも前向きに行動してくれることを期待します。そのためには「思い」をもつ必要があります。「思い」は困難を乗り越える上で大きなエネルギーとなります。

山の学習や修学旅行、その他の学校行事が今まで通りに行えない今、思い切つて、それらの計画を子供たち任せてみてはどうでしょう。子供たちが思いを抱き、生き生きと活動する姿が目に見えます。

# 新しい形での研修会

生活・総合指導員 六ツ美北中学校 廣瀬 浩司

今年度、私は二年生の学年主任をしています。学期が始まってしばらくは教師同士でのコミュニケーションが取りにくい勤務形態が続きました。そこで、休校期間中に、「TELE（ビデオ通話）」を使って「オンライン学年会」を実施しました。初めての試みでしたので、不安もありましたが、始めてみるとあっという間に二時間が過ぎました。離れていても、一つの話題で盛り上がりたり、微妙な表情や声のトーンから相手の思いを感じ取ったりすることができ、こんな関わり方もできるなと感じました。

また、五月の休日には、ZOOMを使ったオンライン学習会に参加する機会がありました。全国各地の先生方とつながって、ポストコロナ社会の学校教育で「探究」を表現させるためにできることを考えたり、全国各地で今だからこそできる活動を紹介し合ったりする貴重な時間となりました。

今年度、コロナ禍で主任会をはじめ、様々な会議がオンラインで行われています。八月にも、生活・総合の全国教育研究会が、オンラインで実施されます。今後も、新しい形で研究会や学習会が実施されることでしょうか。新しい視点をもって参加し、教師としての力量を高めていきたいと思います。

# 学び舎の 総合耳寄り情報（令和元年度の実践）

三年生は、クラスごとに「最先端」「防災」「文化」などといったテーマを設定し、テーマに関連する東京都の施設を日帰りで巡るツアーの企画書を作成しました。二学期には、旅行会社の担当者を審査員として招き、プレゼンテーション審査会を行いました。この活動を通して、情報の整理の仕方や分かりやすく伝える話し方などを学ぶことができました。



（竜海中学校 長瀧 裕二先生）

昨年度の山中小学校では、六年生が野球教室やなわとび教室など、得意なことや特技を生かしてブースを作って発表する「山小フェスティバル」を実施しました。下級生に分かりやすく伝えるための工夫を考えたり、全校の子供たちを楽しませるために、意欲をもって取り組んだりすることができ、自分たちの自信へとつなげることができました。



（山中小学校 山口 真実先生）

五年生は、「目指せ！おコママスター」をテーマに掲げ、食・環境・農業への興味関心を深めることができました。収穫後、米作りにご協力いただいた学区の農家の方への感謝の会を開き、学んだことを発表したり、収穫した米を使って料理を振る舞ったりしました。



（岩津小学校 宮本 晃輔先生）

五年生は、「いじめ防止」の講義を聞きました。いじめを防止するためには、悩んでいる人に気付き、声をかける「ゲートキーパー」の大切さを学びました。自分がゲートキーパーになり、いじめのない学校づくりをしようと考えることができました。



（竜美丘小学校 永田 寛人先生）

二年生は、キャリア教育の環境として「生き方を学ぶ会」を実施しました。六ツ美中卒業生で、社会人として活躍する先輩や夢に向かって大学で勉強に励む先輩を招き、対話をしました。学校生活が、卒業後にいかに生きてくるかを知り、進路選択で大切にすることを考えるよい機会となりました。



（六ツ美中学校 平林 勇太先生）